



プライベート VLAN の設定

- 機能情報の確認 (1 ページ)
- プライベート VLAN の前提条件 (1 ページ)
- プライベート VLAN の制約事項 (2 ページ)
- プライベート VLAN について (3 ページ)
- プライベート VLAN の設定方法 (12 ページ)
- プライベート VLAN のモニター (22 ページ)
- プライベート VLAN の設定例 (22 ページ)
- 次の作業 (24 ページ)
- その他の参考資料 (24 ページ)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、使用するプラットフォームおよびソフトウェア リリースの Bug Search Tool およびリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<https://cfng.cisco.com/>に進みます。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

プライベート VLAN の前提条件

プライベート VLAN は、VTP 1、2、および 3 のトランスペアレント モードでサポートされます。プライベート VLAN は、VTP 3 のサーバー モードでもサポートされます。

プライベート VLAN を device に設定するときに、ユニキャストルートとレイヤ 2 エントリとの間のシステムリソースのバランスを取るために、常にデフォルトの Switch Database Management (SDM) テンプレートを使用してください。別の SDM テンプレートが設定されている場合

は、**sdm prefer default** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してデフォルトのテンプレートを設定します。

プライベート VLAN の制約事項

プライベート VLAN は、LAN Base イメージを実行しているスイッチではサポートされません。



- (注) 一部の状況では、エラーメッセージが表示されずに設定が受け入れられますが、コマンドには効果がありません。
- プライベート VLAN が設定されている devices では、フォールバック ブリッジングを設定しないでください。
 - リモート SPAN (RSPAN) をプライベート VLAN のプライマリまたはセカンダリ VLAN として設定しないでください。
 - 次のような機能が設定されているインターフェイスにプライベート VLAN ポートを設定しないでください。
 - ダイナミック アクセス ポート VLAN メンバーシップ
 - ダイナミック トランキング プロトコル (DTP)
 - IPv6 Security Group (SG)
 - ポート集約プロトコル (PAgP)
 - リンク集約制御プロトコル (LACP)
 - マルチキャスト VLAN レジストレーション (MVR)
 - 音声 VLAN
 - Web Cache Communication Protocol (WCCP)
 - IEEE 802.1x ポートベース認証をプライベート VLAN ポートに設定できますが、802.1x とポートセキュリティ、音声 VLAN、またはポート単位のユーザー ACL は、プライベート VLAN ポートに設定できません。
 - プライベート VLAN ホストまたは無差別ポートは SPAN 宛先ポートにはできません。SPAN 宛先ポートをプライベート VLAN ポートに設定した場合、ポートは非アクティブになります。
 - プライマリ VLAN の無差別ポートでスタティック MAC アドレスを設定する場合は、すべての関連セカンダリ VLAN に同じスタティック アドレスを追加する必要はありません。同様に、セカンダリ VLAN のホスト ポートでスタティック MAC アドレスを設定する場合は、関連プライマリ VLAN に同じスタティック MAC アドレスを追加する必要はありま

せん。さらに、スタティック MAC アドレスをプライベート VLAN ポートから削除する際に、設定されている MAC アドレスのすべてのインスタンスをプライベート VLAN から削除する必要はありません。



(注) プライベート VLAN のセカンダリ VLAN で学習したダイナミック MAC アドレスは、関連プライマリ VLAN で複製されます。プライマリ VLAN からトラフィックが入力される場合でも、すべての MAC エントリはセカンダリ VLAN で学習されます。MAC アドレスがプライマリ VLAN で動的に学習される場合は、関連セカンダリ VLAN では複製されません。

- レイヤ 3 VLAN インターフェイス (SVI) はプライマリ VLAN にだけ設定してください。

プライベート VLAN について

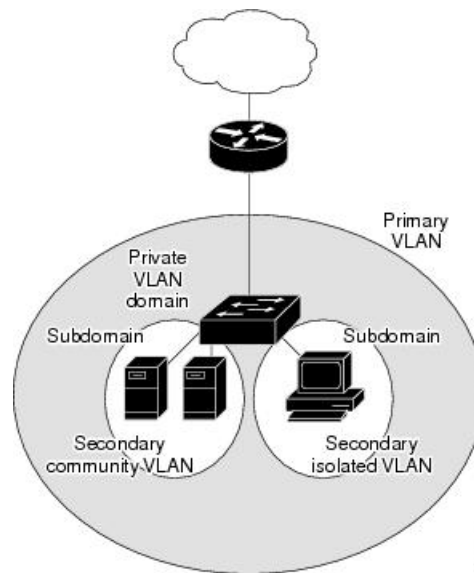
プライベート VLAN ドメイン

PVLAN 機能を使用すると、サービスプロバイダが VLAN を使用したときに直面する 2 つの問題に対処できます。

- IP ルーティングをイネーブルにするには、各 VLAN にサブネットアドレス空間またはアドレスブロックを割り当てますが、これにより、未使用の IP アドレスが無駄になり、IP アドレスの管理に問題が起きます。

図 1: プライベート VLAN ドメイン

プライベート VLAN の使用でスケーラビリティの問題に対処でき、サービスプロバイダにとっては IP アドレス管理上の利得がもたらされ、カスタマーに対してはレイヤ 2 セキュリティを提供できます。プライベート VLAN では、通常の VLAN ドメインをサブドメインに分割します。サブドメインは、プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN のペアで表されます。プライベート VLAN には複数の VLAN ペアを設定可能で、各サブドメインにつき 1 ペアになります。プライベート VLAN 内のすべての VLAN ペアは同じプライマリ VLAN を共有します。セカンダリ VLAN ID は、各サブドメインの区別に使用されます。



セカンダリ VLAN

セカンダリ VLAN には、次の 2 種類があります。

- 独立 VLAN : 独立 VLAN 内のポートは、レイヤ 2 レベルでは相互に通信できません。
- コミュニティ VLAN : コミュニティ VLAN 内のポートは互いに通信できますが、レイヤ 2 レベルにある他のコミュニティ内のポートとは通信できません。

プライベート VLAN ポート

プライベート VLAN では、同じプライベート VLAN 内のポート間をレイヤ 2 で分離します。プライベート VLAN ポートは、次のいずれかの種類に属するアクセス ポートです。

- 無差別 : 無差別ポートは、プライベート VLAN に属し、プライマリ VLAN と関連しているセカンダリ VLAN に属するコミュニティ ポートや独立ホスト ポートなどの、すべてのインターフェイスと通信できます。
- 独立 : 独立ポートは、独立セカンダリ VLAN に属しているホスト ポートです。これは、無差別ポートを除く、同じプライベート VLAN 内の他のポートからレイヤ 2 で完全に分離されています。プライベート VLAN は、無差別ポートからのトラフィックを除き、独立ポート宛のトラフィックをすべてブロックします。独立ポートから受信されたトラフィックは、無差別ポートにだけ転送されます。
- コミュニティ : コミュニティ ポートは、1 つのコミュニティセカンダリ VLAN に属しているホスト ポートです。コミュニティ ポートは、同一コミュニティ VLAN のその他のポート、および無差別ポートと通信します。これらのインターフェイスは、他のコミュニティの他のすべてのインターフェイスおよびプライベート VLAN 内の独立ポートとレイヤ 2 で分離されます。



- (注) トランク ポートは、通常の VLAN からのトラフィックを伝送し、またプライマリ、独立、およびコミュニティ VLAN からのトラフィックも伝送します。

プライマリおよびセカンダリ VLAN には次のような特性があります。

- **プライマリ VLAN** : プライベート VLAN には、プライマリ VLAN を 1 つだけ設定できます。プライベート VLAN 内のすべてのポートは、プライマリ VLAN のメンバーです。プライマリ VLAN は、無差別ポートからの単方向トラフィックのダウンストリームを、(独立およびコミュニティ) ホスト ポートおよび他の無差別ポートへ伝送します。
- **独立 VLAN** : プライベート VLAN の独立 VLAN は 1 つだけです。独立 VLAN はセカンダリ VLAN であり、ホストから無差別ポートおよびゲートウェイに向かう単方向トラフィック アップストリームを搬送します。
- **コミュニティ VLAN** : コミュニティ VLAN は、アップストリーム トラフィックをコミュニティ ポートから無差別ポートゲートウェイおよび同じコミュニティ内の他のホストポートに伝送するセカンダリ VLAN です。複数のコミュニティ VLAN を 1 つのプライベート VLAN に設定できます。

無差別ポートは、1 つのプライマリ VLAN、1 つの独立 VLAN、複数のコミュニティ VLAN だけで動作できます。レイヤ 3 ゲートウェイは通常、無差別ポートを介して device に接続されます。無差別ポートでは、広範囲なデバイスをプライベート VLAN のアクセス ポイントとして接続できます。たとえば、すべてのプライベート VLAN サーバーを管理ワークステーションから監視したりバックアップしたりするのに、無差別ポートを使用できます。

ネットワーク内のプライベート VLAN

スイッチング環境では、個々のエンドステーションに、または共通グループのエンドステーションに、個別のプライベート VLAN や、関連する IP サブネットを割り当てることができます。エンドステーションはデフォルト ゲートウェイとの通信を行うだけで、プライベート VLAN の外部と通信することができます。

プライベート VLAN を使用し、次の方法でエンドステーションへのアクセスを制御できます。

- エンドステーションに接続されているインターフェイスを選択して独立ポートとして設定し、レイヤ 2 の通信をしないようにします。たとえば、エンドステーションがサーバーの場合、この設定によりサーバー間のレイヤ 2 通信ができなくなります。
- デフォルト ゲートウェイおよび選択したエンドステーション (バックアップサーバーなど) に接続されているインターフェイスを無差別ポートとして設定し、すべてのエンドステーションがデフォルト ゲートウェイにアクセスできるようにします。

複数のデバイスにわたるようにプライベート VLAN を拡張するには、プライマリ VLAN、独立 VLAN、およびコミュニティ VLAN を、プライベート VLAN をサポートする他のデバイスにトランッキングします。使用するプライベート VLAN 設定のセキュリティを確保して、プライベート VLAN として設定された VLAN が他の目的に使用されないようにするには、プライ

プライベート VLAN ポートがないデバイスを含めて、すべての中間デバイスでプライベート VLAN を設定します。

プライベート VLAN での IP アドレッシング方式

各カスタマーに個別の VLAN を割り当てると、次のように IP アドレッシング方式が非効率的になります。

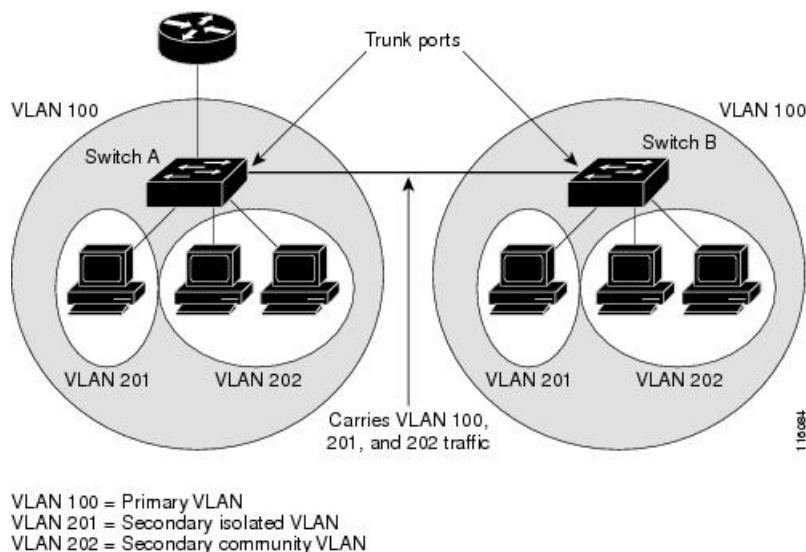
- カスタマー VLAN にアドレスのブロックを割り当てると、未使用 IP アドレスが発生することがあります。
- VLAN 内のデバイス数が増加した場合、それに対応するだけのアドレスを割り当てられない場合があります。

この問題は、プライベート VLAN を使用すると軽減します。プライベート VLAN では、プライベート VLAN のすべてのメンバーが、プライマリ VLAN に割り当てられている共通アドレス空間を共有するためです。ホストはセカンダリ VLAN に接続され、プライマリ VLAN に割り当てられているアドレスのブロックから IP アドレスが DHCP サーバーによってホストに割り当てられますが、同一プライマリ VLAN 内のセカンダリ VLAN には割り当てられません。さまざまなセカンダリ VLAN のカスタマー デバイスには後続 IP アドレスが割り当てられます。新しいデバイスを追加すると、サブネットアドレスの巨大プールから次に使用できるアドレスが、DHCP サーバーによって割り当てられます。

複数にまたがるプライベート VLAN Devices

図 2: 複数のスイッチにまたがるプライベート VLAN

通常の VLAN と同じように、プライベート VLAN は複数の devices に広げることができます。トランク ポートはプライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN をネイバー device に伝送します。トランク ポートはプライベート VLAN を他の VLAN として扱います。複数の devices に及ぶプライベート VLAN には、デバイス A の独立ポートからのトラフィックが、デバイス B の独立ポートに達しないという特徴があります。



プライベート VLAN は、VTP 1、2、および 3 のトランスペアレント モードでサポートされます。プライベート VLAN は VTP 3 のサーバー モードでもサポートされます。VTP 3 を使用して設定したサーバクライアントがある場合、サーバに設定されているプライベート VLAN をクライアント上に反映させる必要があります。

プライベート VLAN の他機能との相互作用

プライベート VLAN とユニキャスト、ブロードキャスト、およびマルチキャスト トラフィック

通常の VLAN では、同じ VLAN にあるデバイスはレイヤ 2 レベルで互いに通信しますが、別の VLAN にあるインターフェイスに接続されたデバイスとはレイヤ 3 レベルで通信する必要があります。プライベート VLAN の場合、無差別ポートはプライマリ VLAN のメンバーであり、ホストポートはセカンダリ VLAN に属します。セカンダリ VLAN はプライマリ VLAN に対応付けられているため、これらの VLAN のメンバーはレイヤ 2 レベルで互いに通信できます。

通常の VLAN の場合、ブロードキャストはその VLAN のすべてのポートに転送されます。プライベート VLAN のブロードキャストの転送は、次のようにブロードキャストを送信するポートによって決まります。

- 独立ポートは、無差別ポートまたはトランク ポートだけにブロードキャストを送信しません。
- コミュニティ ポートは、すべての無差別ポート、トランク ポート、同一コミュニティ VLAN のポートにブロードキャストを送信します。
- 無差別ポートは、プライベート VLAN のすべてのポート（その他の無差別ポート、トランク ポート、独立ポート、コミュニティ ポート）にブロードキャストを送信します。

マルチキャストトラフィックのルーティングとブリッジングは、プライベート VLAN 境界を横断して行われ、単一コミュニティ VLAN 内でも行われます。マルチキャストトラフィックは、同一独立 VLAN のポート間、または別々のセカンダリ VLAN のポート間で転送されません。

プライベート VLAN のマルチキャスト転送は次の状況をサポートします。

- 送信側が VLAN 外に存在する可能性があり、受信側が VLAN ドメイン内に存在している可能性がある。
- 送信側が VLAN 内に存在する可能性があり、受信側が VLAN ドメイン外に存在している可能性がある。
- 送信側と受信側が同一のコミュニティ VLAN に存在している可能性がある。

プライベート VLAN と SVI

レイヤ 3 device では、device 仮想インターフェイス (SVI) が VLAN のレイヤ 3 インターフェイスを表します。レイヤ 3 デバイスは、セカンダリ VLAN ではなく、プライマリ VLAN だけを介してプライベート VLAN と通信します。レイヤ 3 VLAN インターフェイス (SVI) はプライマリ VLAN にだけ設定してください。レイヤ 3 VLAN インターフェイスをセカンダリ VLAN 用に設定できません。VLAN がセカンダリ VLAN として設定されている間、セカンダリ VLAN の SVI はアクティブになりません。

- SVI がアクティブである VLAN をセカンダリ VLAN として設定する場合、SVI をディセーブルにしないと、この設定は許可されません。
- セカンダリ VLAN として設定されている VLAN に SVI を作成しようとしてセカンダリ VLAN がすでにレイヤ 3 にマッピングされている場合、SVI は作成されず、エラーが返されます。SVI がレイヤ 3 にマッピングされていない場合、SVI は作成されますが、自動的にシャットダウンされます。

プライマリ VLAN をセカンダリ VLAN と関連付けてマッピングすると、プライマリ VLAN の設定がセカンダリ VLAN の SVI に伝播されます。たとえば、プライマリ VLAN の SVI に IP サブネットを割り当てると、このサブネットは、プライベート VLAN 全体の IP サブネットアドレスになります。

プライベート VLAN 設定時の注意事項

セカンダリ VLAN およびプライマリ VLAN の設定

プライベート VLAN の設定時は、次の注意事項に従ってください。

- プライベート VLAN は、VTP 1、2、および 3 のトランスペアレントモードでサポートされます。device で VTP バージョン 1 または 2 が稼働している場合は、VTP をトランスペアレントモードに設定する必要があります。プライベート VLAN を設定した後で、VTP モードをクライアントまたはサーバーに変更できません。VTP バージョン 3 は、すべてのモードでプライベート VLAN をサポートします。

- VTP バージョン 1 または 2 でプライベート VLAN を設定した後、**copy running-config startup config** 特権 EXEC コマンドを使用して、VTP トランスペアレントモード設定とプライベート VLAN 設定を device スタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。保存しないと、device をリセットした場合、デフォルトの VTP サーバーモードになり、プライベート VLAN をサポートしなくなります。VTP バージョン 3 ではプライベート VLAN をサポートします。
 - VTP バージョン 1 および 2 では、プライベート VLAN 設定の伝播は行われません。プライベート VLAN ポートが必要なデバイスで VTP バージョン 3 が実行されていない場合は、VTP3 はプライベート VLAN を伝播するため、そのデバイス上でプライベート VLAN を設定する必要があります。
 - VLAN 1 または VLAN 1002 ~ 1005 をプライマリ VLAN またはセカンダリ VLAN として設定できません。拡張 VLAN (VLAN ID 1006 ~ 4094) はプライベート VLAN に属することができます。
 - プライマリ VLAN には、1 つの独立 VLAN および複数のコミュニティ VLAN を関連付けることができます。独立 VLAN またはコミュニティ VLAN には、1 つのプライマリ VLAN だけを関連付けることができます。
 - プライベート VLAN には複数の VLAN が含まれますが、プライベート VLAN 全体で実行可能なスパンニングツリー プロトコル (STP) インスタンスは 1 つだけです。セカンダリ VLAN がプライマリ VLAN に関連付けられている場合、プライマリ VLAN の STP パラメータがセカンダリ VLAN に伝播されます。
 - TFTP サーバーから PVLAN 設定をコピーし、それを実行中の設定に適用しても、PVLAN の関連付けは形成されません。プライマリ VLAN がすべてのセカンダリ VLAN に確実に関連付けられていることを確認する必要があります。
- copy flash:config_file running-config**の代わりに**configure replace flash:config_file force**を使用することもできます。
- DHCP スヌーピングはプライベート VLAN 上でイネーブルにできます。プライマリ VLAN で DHCP スヌーピングをイネーブルにすると、DHCP スヌーピングはセカンダリ VLAN に伝播されます。セカンダリ VLAN で DHCP を設定しても、プライマリ VLAN をすでに設定している場合、DHCP 設定は有効になりません。
 - プライベート VLAN ポートで IP ソース ガードをイネーブルにする場合は、プライマリ VLAN で DHCP スヌーピングをイネーブルにする必要があります。
 - プライベート VLAN でトラフィックを伝送しないデバイスのトランクから、プライベート VLAN をプルーニングすることを推奨します。
 - プライマリ VLAN、独立 VLAN、およびコミュニティ VLAN には、別々の Quality of Service (QoS) 設定を適用できます
 - sticky ARP には、次の考慮事項があります。
 - sticky ARP エントリとは、SVI およびレイヤ 3 インターフェイス上で学習されるエントリです。これらのエントリは、期限切れになることはありません。

- **ip sticky-arp** グローバル コンフィギュレーション コマンドは、プライベート VLAN に属する SVI でだけサポートされます。
- **ip sticky-arp** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、以下でのみサポートされます。
 - レイヤ 3 インターフェイス
 - 標準 VLAN に属する SVI
 - プライベート VLAN に属する SVI

ip sticky-arp グローバルコンフィギュレーションおよび **ip sticky-arp interface** コンフィギュレーションコマンドの使用の詳細については、このリリースのコマンドリファレンスを参照してください。

- プライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN で VLAN マップを設定できますただし、プライベート VLAN のプライマリおよびセカンダリ VLAN に同じ VLAN マップを設定することを推奨します。
- PVLAN は双方向です。これらは、入力側と出力側の両方に適用されます。

レイヤ 2 のフレームがプライベート VLAN 内で転送されると、入力側と出力側で VLAN マップが適用されます。フレームがプライベート VLAN の内側から外部ポートにルーティングされる場合、プライベート VLAN マップが入力側に適用されます。同様に、フレームが外部ポートからプライベート VLAN にルーティングされると、プライベート VLAN は出力側に適用されます。

ブリッジング

- セカンダリ VLAN からプライマリ VLAN へのアップストリーム トラフィックの場合、セカンダリ VLAN の MAP は入力側に適用され、プライマリ VLAN の MAP は出力側に適用されます。
- プライマリ VLAN からセカンダリ VLAN へのダウンストリーム トラフィックの場合、プライマリ VLAN の MAP は入力方向で適用され、セカンダリ VLAN の MAP は出力方向で適用されます。

ルーティング

プライベート VLAN ドメインが 2 つ (PV1 (sec1、prim1) および PV2 (sec2、prim2)) ある場合を想定します。PV1 から PV2 にルーティングされるフレームについては次のようになります。

- sec1 の MAP および prim1 の L3 ACL は入力ポートに適用されます。
- sec1 の MAP および prim2 の L3 ACL は出力ポートに適用されます。
- 分離されたホスト ポートから無差別ポートへのアップストリームまたはダウンストリームに従うパケットの場合、分離された VLAN の VACL は入力方向に適用され、プライマリ VLAN の VACL は出力方向に適用されます。これにより、ユーザーは同

じプライマリ VLAN ドメインの別のセカンダリ VLAN に異なる VACL を設定することができます。

プライベート VLAN の特定 IP トラフィックをフィルタリングするには、プライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN の両方に VLAN マップを適用する必要があります。

- プライマリ VLAN SVI にだけルータ ACL を適用できます。ACL はプライマリおよびセカンダリ VLAN のレイヤ 3 トラフィックに適用されます。
- プライベート VLAN がレイヤ 2 でホストを分離していても、ホストはレイヤ 3 で互いに通信できます。
- プライベート VLAN では、次のスイッチド ポート アナライザ (SPAN) 機能がサポートされます。
 - プライベート VLAN を SPAN 送信元ポートとして設定できます。
 - プライマリ VLAN、独立 VLAN、およびコミュニティ VLAN 上で VLAN ベースの SPAN (VSPAN) を使用したり、単一の VLAN 上で SPAN を使用したりして、出力トラフィックまたは入力トラフィックを個別に監視することができます。

プライベート VLAN ポートの設定

プライベート VLAN ポートの設定時は、次の注意事項に従ってください。

- プライマリ VLAN、独立 VLAN、またはコミュニティ VLAN にポートを割り当てるには、プライベート VLAN コンフィギュレーション コマンドだけを使用します。プライマリ VLAN、独立 VLAN、またはコミュニティ VLAN として設定する VLAN に割り当てられているレイヤ 2 アクセス ポートは、この VLAN がプライベート VLAN の設定に含まれている場合、非アクティブです。レイヤ 2 トランク インターフェイスは STP フォワーディング ステートのままです。
- PAgP または LACP EtherChannel に属するポートを、プライベート VLAN ポートとして設定しないでください。ポートがプライベート VLAN の設定に含まれている間は、そのポートの EtherChannel 設定はいずれも非アクティブです。
- 設定ミスによる STP ループの発生を防ぎ、STP コンバージェンスを高速化するには、独立ホストポートおよびコミュニティホストポート上で PortFast および BPDU ガードをイネーブルにします。イネーブルの場合、STP はすべての PortFast が設定されたレイヤ 2 LAN ポートに BPDU ガード機能を適用します。PortFast および BPDU ガードを無差別ポートでイネーブルにしないでください。
- プライベート VLAN の設定で使用される VLAN を削除すると、この VLAN に関連付けられたプライベート VLAN ポートが非アクティブになります。
- ネットワーク デバイスをトランク接続し、プライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN がトランクから削除されていない場合、プライベート VLAN ポートはさまざまなネットワーク デバイス上で使用できます。

プライベート VLAN の設定タスク

プライベート VLAN を設定するには、次の手順を実行します。

1. VTP モードをトランスペアレントに設定します。
2. プライマリおよびセカンダリ VLAN を作成してこれらに対応付けします。



(注) VLAN がまだ作成されていない場合、プライベート VLAN 設定プロセスでこれを作成します。

3. インターフェイスを独立ポートまたはコミュニティホストポートに設定して、ホストポートに VLAN メンバーシップを割り当てます。
4. インターフェイスを無差別ポートとして設定し、無差別ポートをプライマリおよびセカンダリ VLAN のペアにマッピングします。
5. VLAN 間ルーティングを使用する場合は、プライマリ SVI を設定し、セカンダリ VLAN をプライマリにマッピングします。
6. プライベート VLAN の設定を確認します。

プライベート VLAN の設定方法

プライベート VLAN 内の VLAN の設定および対応付け

VLAN コンフィギュレーションモードを終了するまで、**private-vlan** コマンドは有効ではありません。

プライベート VLAN 内で VLAN を設定し、関連付けるには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **vtp mode transparent**
4. **vlan *vlan-id***
5. **private-vlan primary**
6. **exit**
7. **vlan *vlan-id***
8. **private-vlan isolated**
9. **exit**
10. **vlan *vlan-id***
11. **private-vlan community**

12. **exit**
13. **vlan *vlan-id***
14. **private-vlan community**
15. **exit**
16. **vlan *vlan-id***
17. **private-vlan association [add | remove] *secondary_vlan_list***
18. **end**
19. **show vlan private-vlan [type] or show interfaces status**
20. **copy running-config startup config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： スイッチ> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： スイッチ# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	vtp mode transparent 例： スイッチ(config)# vtp mode transparent	VTP モードをトランスペアレントに設定します（VTP をディセーブルにします）。 (注) VTP3 の場合、サーバーまたはトランスペアレントモードのいずれにもモードを設定できます。
ステップ 4	vlan <i>vlan-id</i> 例： スイッチ(config)# vlan 20	VLAN コンフィギュレーションモードを開始して、プライマリ VLAN となる VLAN を指定または作成します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。
ステップ 5	private-vlan primary 例： スイッチ(config-vlan)# private-vlan primary	VLAN をプライマリ VLAN として指定します。
ステップ 6	exit 例：	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
	スイッチ(config-vlan)# exit	
ステップ 7	vlan vlan-id 例： スイッチ(config)# vlan 501	(任意) VLAN コンフィギュレーションモードを開始して、独立 VLAN となる VLAN を指定または作成します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。
ステップ 8	private-vlan isolated 例： スイッチ(config-vlan)# private-vlan isolated	VLAN を独立 VLAN として指定します。
ステップ 9	exit 例： スイッチ(config-vlan)# exit	グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 10	vlan vlan-id 例： スイッチ(config)# vlan 502	(任意) VLAN コンフィギュレーションモードを開始して、コミュニティ VLAN となる VLAN を指定または作成します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。
ステップ 11	private-vlan community 例： スイッチ(config-vlan)# private-vlan community	VLAN をコミュニティ VLAN として指定します。
ステップ 12	exit 例： スイッチ(config-vlan)# exit	グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 13	vlan vlan-id 例： スイッチ(config)# vlan 503	(任意) VLAN コンフィギュレーションモードを開始して、コミュニティ VLAN となる VLAN を指定または作成します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 14	private-vlan community 例 : スイッチ (config-vlan) # private-vlan community	VLAN をコミュニティ VLAN として指定します。
ステップ 15	exit 例 : スイッチ (config-vlan) # exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 16	vlan vlan-id 例 : スイッチ (config) # vlan 20	ステップ 4 で指定したプライマリ VLAN に関して VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	private-vlan association [add remove] secondary_vlan_list 例 : スイッチ (config-vlan) # private-vlan association 501-503	セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付けます。単一のプライベート VLAN ID でも、またはハイフンで連結したプライベート VLAN ID でもかまいません。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>secondary_vlan_list</i> パラメータには、スペースを含めないでください。カンマで区切った複数の項目を含めることができます。各項目として入力できるのは、単一のプライベート VLAN ID またはハイフンで連結したプライベート VLAN ID です。 • <i>secondary_vlan_list</i> パラメータには複数のコミュニティ VLAN ID を含められますが、独立 VLAN ID は 1 つだけです。 • <i>secondary_vlan_list</i> を入力するか、または <i>secondary_vlan_list</i> で add キーワードを指定し、セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN を関連付けます。 • セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN 間の関連付けをクリアするには、<i>secondary_vlan_list</i> に remove キーワードを使用します。 • このコマンドは、VLAN コンフィギュレーション モードを終了するまで機能しません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 18	end 例： スイッチ (config) # end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 19	show vlan private-vlan [type] or show interfaces status 例： スイッチ# show vlan private-vlan	設定を確認します。
ステップ 20	copy running-config startup config 例： スイッチ# copy running-config startup-config	device スタートアップコンフィギュレーションファイルに設定項目を保存します。

プライベート VLAN ホストポートとしてのレイヤ2 インターフェイスの設定

レイヤ2 インターフェイスをプライベート VLAN ホストポートとして設定し、これをプライマリおよびセカンダリ VLAN に関連付けるには、次の手順を実行します。



(注) 独立およびコミュニティ VLAN はいずれもセカンダリ VLAN です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface *interface-id***
4. **switchport mode private-vlan host**
5. **switchport private-vlan host-association *primary_vlan_id secondary_vlan_id***
6. **end**
7. **show interfaces [*interface-id*] switchport**
8. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： スイッチ> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： スイッチ# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id 例： スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/22	設定するレイヤ 2 インターフェイスに対して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switchport mode private-vlan host 例： スイッチ(config-if)# switchport mode private-vlan host	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN ホストポートとして設定します。
ステップ 5	switchport private-vlan host-association primary_vlan_id secondary_vlan_id 例： スイッチ(config-if)# switchport private-vlan host-association 20 501	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN と関連付けます。 (注) これは、レイヤ 2 インターフェイスに PVLAN を関連付けるために必要な手順です。
ステップ 6	end 例： スイッチ(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	show interfaces [interface-id] switchport 例： スイッチ# show interfaces gigabitethernet1/0/22 switchport	設定を確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	copy running-config startup-config 例： スイッチ# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

プライベート VLAN 無差別ポートとしてのレイヤ2インターフェイスの設定

レイヤ2インターフェイスをプライベート VLAN 無差別ポートとして設定し、これをプライマリおよびセカンダリ VLAN にマッピングするには、次の手順を実行します。



(注) 独立およびコミュニティ VLAN はいずれもセカンダリ VLAN です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface *interface-id***
4. **switchport mode private-vlan promiscuous**
5. **switchport private-vlan mapping *primary_vlan_id* {add | remove} *secondary_vlan_list***
6. **end**
7. **show interfaces [*interface-id*] switchport**
8. **copy running-config startup config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： スイッチ> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例： スイッチ# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	interface <i>interface-id</i> 例： スイッチ (config) # interface gigabitethernet1/0/2	設定するレイヤ2 インターフェイスに対して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switchport mode private-vlan promiscuous 例： スイッチ (config-if) # switchport mode private-vlan promiscuous	レイヤ2 ポートをプライベート VLAN 無差別ポートとして設定します。
ステップ 5	switchport private-vlan mapping <i>primary_vlan_id</i> { add remove } <i>secondary_vlan_list</i> 例： スイッチ (config-if) # switchport private-vlan mapping 20 add 501-503	プライベート VLAN 無差別ポートをプライマリ VLAN、および選択したセカンダリ VLAN にマッピングします。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>secondary_vlan_list</i> パラメータには、スペースを含めないでください。カンマで区切った複数の項目を含めることができます。各項目として入力できるのは、単一のプライベート VLAN ID、またはハイフンで連結したプライベート VLAN ID の範囲です。 • セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN をプライベート VLAN 無差別ポートにマッピングするには、<i>secondary_vlan_list</i>、または add キーワードを指定した <i>secondary_vlan_list</i> を使用します。 • セカンダリ VLAN とプライベート VLAN 無差別ポートのマッピングを解除するには、remove キーワードを指定した <i>secondary_vlan_list</i> を使用します。
ステップ 6	end 例： スイッチ (config) # end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	show interfaces [<i>interface-id</i>] switchport 例： スイッチ # show interfaces gigabitethernet1/0/2 switchport	設定を確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	copy running-config startup config 例： スイッチ# copy running-config startup-config	device スタートアップコンフィギュレーションファイルに設定項目を保存します。

セカンダリ VLAN のプライマリ VLAN レイヤ 3 VLAN インターフェイスへのマッピング

プライベート VLAN が VLAN 間ルーティングに使用される場合、SVI をプライマリ VLAN に設定してセカンダリ VLAN を SVI にマッピングできます。



(注) 独立およびコミュニティ VLAN はいずれもセカンダリ VLAN です。

セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN の SVI にマッピングしてプライベート VLAN トラフィックのレイヤ 3 スイッチングを可能にするには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface vlan *primary_vlan_id***
4. **private-vlan mapping [add | remove] *secondary_vlan_list***
5. **end**
6. **show interface private-vlan mapping**
7. **copy running-config startup config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： スイッチ> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： スイッチ# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<p>interface vlan <i>primary_vlan_id</i></p> <p>例 :</p> <p>スイッチ (config) # interface vlan 20</p>	<p>プライマリ VLAN でインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始して、VLAN を SVI として設定します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。</p>
ステップ 4	<p>private-vlan mapping [add remove] <i>secondary_vlan_list</i></p> <p>例 :</p> <p>スイッチ (config-if) # private-vlan mapping 501-503</p>	<p>セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN のレイヤ 3 VLAN インターフェイスにマッピングして、プライベート VLAN 入力トラフィックのレイヤ 3 スイッチングを可能にします。</p> <p>(注) private-vlan mapping インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、レイヤ 3 スイッチングされているプライベート VLAN トラフィックにだけ影響を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>secondary_vlan_list</i> パラメータには、スペースを含めないでください。カンマで区切った複数の項目を含めることができます。各項目として入力できるのは、単一のプライベート VLAN ID またはハイフンで連結したプライベート VLAN ID です。 • <i>secondary_vlan_list</i> を入力するか、または add キーワードを指定した <i>secondary_vlan_list</i> を使用して、セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN にマッピングします。 • remove キーワードを指定した <i>secondary_vlan_list</i> を使用して、セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN のマッピングを解除します。
ステップ 5	<p>end</p> <p>例 :</p> <p>スイッチ (config) # end</p>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>
ステップ 6	<p>show interface private-vlan mapping</p> <p>例 :</p> <p>スイッチ # show interfaces private-vlan mapping</p>	<p>設定を確認します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	copy running-config startup config 例 : スイッチ# copy running-config startup-config	device スタートアップコンフィギュレーションファイルに設定項目を保存します。

プライベート VLAN のモニター

次の表に、プライベート VLAN をモニターするために使用するコマンドを記載します。

表 1: プライベート VLAN モニタリングコマンド

コマンド	目的
show interfaces status	所属する VLAN を含む、インターフェイスのステータスを表示します。
show vlan private-vlan [type]	スイッチのプライベート VLAN 情報を表示します。
show interface switchport	インターフェイス上のプライベート VLAN 設定を表示します。
show interface private-vlan mapping	VLAN SVI のプライベート VLAN マッピングに関する情報を表示します。

プライベート VLAN の設定例

例：ホストポートとしてのインターフェイスの設定

次に、インターフェイスをプライベート VLAN ホストポートとして設定し、それをプライベート VLAN ペアに関連付けて、その設定を確認する例を示します。

```

スイッチ# configure terminal
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/22
スイッチ(config-if)# switchport mode private-vlan host
スイッチ(config-if)# switchport private-vlan host-association 20 501
スイッチ(config-if)# end
スイッチ# show interfaces gigabitethernet1/0/22 switchport
Name: Gi1/0/22
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan host
Operational Mode: private-vlan host

```

```

Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: 20 501
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: none
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
Administrative private-vlan trunk private VLANs: none
Operational private-vlan:
20 501

<output truncated>

```

例：プライベート VLAN 無差別ポートとしてのインターフェイスの設定

次の例では、インターフェイスをプライベート VLAN 無差別ポートとして設定し、それをプライベート VLAN にマッピングする方法を示します。インターフェイスは、プライマリ VLAN 20 のメンバで、セカンダリ VLAN 501 ~ 503 がマッピングされます。

```

スイッチ# configure terminal
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/2
スイッチ(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
スイッチ(config-if)# switchport private-vlan mapping 20 add 501-503
スイッチ(config-if)# end

```

show vlan private-vlan または **show interface status** 特権 EXEC コマンドを使用してプライマリおよびセカンダリ VLAN と スイッチ 上のプライベート VLAN ポートを表示します。

例：セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN インターフェイスにマッピングする

次に、VLAN 501 および 502 のインターフェイスをプライマリ VLAN 10 にマッピングする例を示します。これにより、プライベート VLAN 501 および 502 からのセカンダリ VLAN 入力トラフィックのルーティングが可能になります。

```

スイッチ# configure terminal
スイッチ(config)# interface vlan 20
スイッチ(config-if)# private-vlan mapping 501-503
スイッチ(config-if)# end
スイッチ# show interfaces private-vlan mapping
Interface Secondary VLAN Type
-----
vlan20      501          isolated

```

例：プライベート VLAN のモニタリング

```

vlan20    502          community
vlan20    503          community

```

例：プライベート VLAN のモニタリング

次に、`show vlan private-vlan` コマンドの出力例を示します。

```

スイッチ# show vlan private-vlan
-----
Primary Secondary Type          Ports
-----
20         501         isolated      Gi1/0/22, Gi1/0/2
20         502         community     Gi1/0/2
20         503         community     Gi1/0/2

```

次の作業

次の設定を行えます。

- VTP
- VLAN
- VLAN トランッキング
- VLAN メンバーシップ ポリシー サーバー (VMPS)
- 音声 VLAN

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
CLI コマンド	LAN Switching コマンド リファレンス, Cisco IOS リリース

標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 1573	
RFC 1757	
RFC 2021	

MIB

MIB	MIB のリンク
<p>本リリースでサポートするすべての MIB</p> <ul style="list-style-type: none"> • BRIDGE-MIB (RFC1493) • CISCO-BRIDGE-EXT-MIB • CISCO-CDP-MIB • CISCO-PAGP-MIB • CISCO-PRIVATE-VLAN-MIB • CISCO-LAG-MIB • CISCO-L2L3-INTERFACE-CONFIG-MIB • CISCO-MAC-NOTIFICATION-MIB • CISCO-STP-EXTENSIONS-MIB • CISCO-VLAN-IFTABLE-RELATIONSHIP-MIB • CISCO-VLAN-MEMBERSHIP-MIB • CISCO-VTP-MIB • IEEE8023-LAG-MIB • IF-MIB (RFC 1573) • RMON-MIB (RFC 1757) • RMON2-MIB (RFC 2021) 	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p>http://www.cisco.com/go/mibs</p>

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/support</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。